

なぜ手取川の周りには島とつく地名が多いのか

白山市立北陽小学校 6年3組 田中 優也

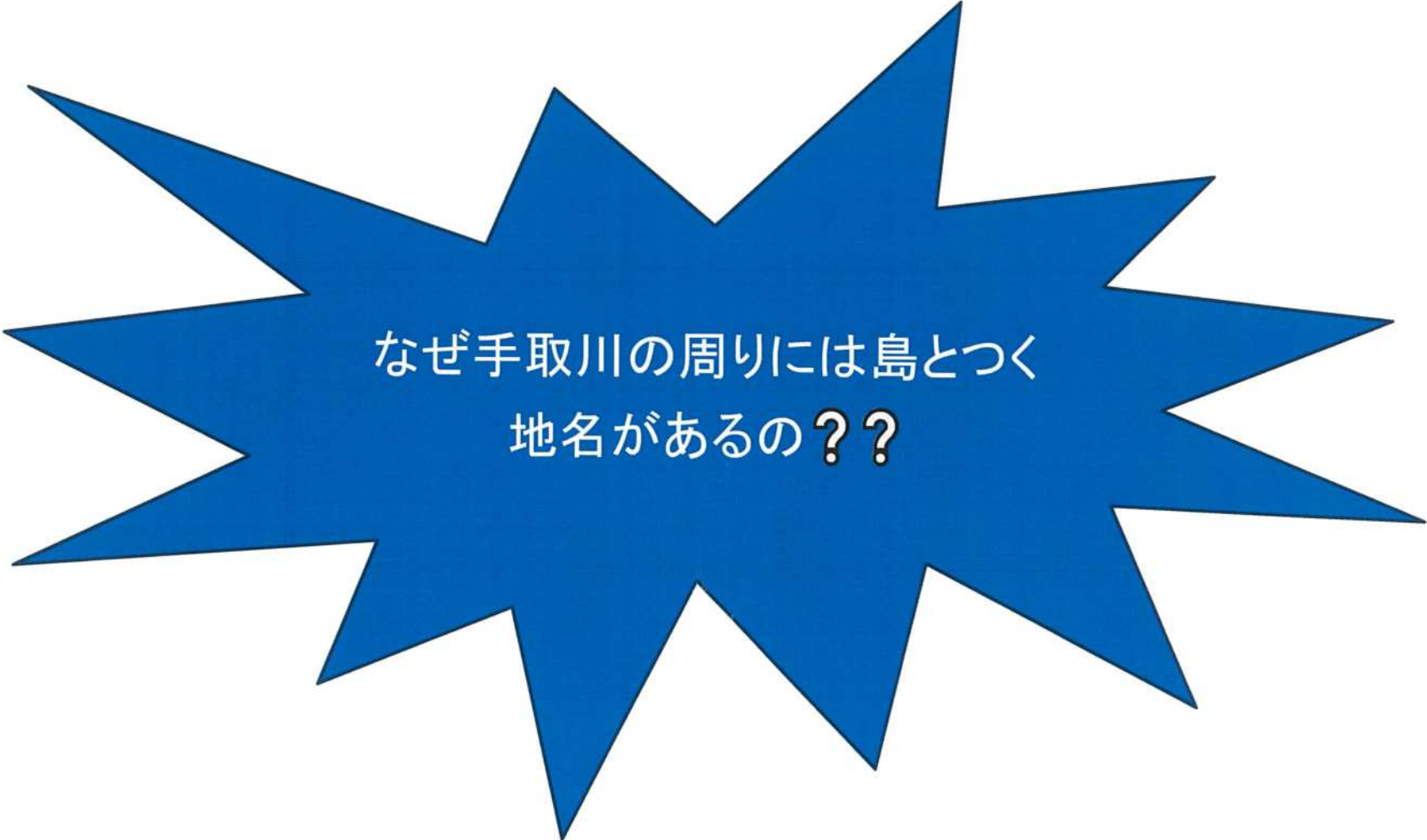
目次

- 1 調べた目的
- 2 なぜ手取川の周りに島がつく
地名が多いのか
- 3 本当に周りより高いのか
- 4 最近の洪水対策
- 5 感想
- 6 参考文献

1 調べた目的

僕のひいおばあちゃんの話には、よく与九郎島
や源兵島といった白山市の地名が出てきます。

近くに島はないのに、なぜ島という言葉がついて
いるのかが気になったため、その理由を明らかに
したいと思ったためです。



なぜ手取川の周りには島とつく
地名があるの??

2 なぜ手取川の周りに島がつく地名が多いのか

ほかにも島がつく地名がないのか気になったので調べてみました。すると田子島町、出合島町、舟場島町、水島町、長島町、矢頃島町、漆島町、森島町、明島町、明法島町、北島町、中島町などたくさんありました。

このように島がつく地名がたくさんあることがわかったので、その理由を白山市立松任図書館へ行って調べました。それによると以下のことがわかりました。

200 万年前に手取川扇状地の形の成型が始まったといわれています。そして、今の形になったのが縄文時代後期ごろになってからです。また、手取川扇状地ができるときに運ばれてきた土砂が集まり、固まって周りより高くなったところに洪水から身を守るために集落を作りました。手取川は暴れ川と言われよく氾濫していました。そして氾濫したときに、そこだけ島みたいになったことから「島」という文字がつくようになりました。昔の人は、洪水が起きた時に高いところに言って身を守るためにその集落のことを島集落と言うようになりました。

洪水から本当に身を守れるのかを調べるためにハザードマップを見てみました。図1より被害が少なくなっているのがわかります。

なので、手取川が氾濫したときに島集落に逃げ込みました。



図1: 与九郎島町周辺のハザードマップ

3 本当に周りより高いのか

まず、白山市田子島町に行ってみました。

図2の田子島の標高が18.2mでした。次に図3の近くの田んぼの標高が16.4m でした。この結果から8m の違いがあります。図9は町はずれの住宅街と田んぼの様子を撮影したものです。明らかに高さに差があることがわかります。

次に与九郎島に行きました。

図4の与九郎島の標高が28.9m でした。次に図5の近くの田んぼの標高が25.3m でした。この結果から、3.6mの違いがあります。図14は集落のはずれの住宅と道路の様子を撮影したものです。明らかに高さに差があることがわかります。図12を見ても差があるのがわかります。

次に源兵島に行きました。図6の源兵島の標高が、15.9mでした。次に図7の近くの墓地が15m でした。この結果から、0.9mの違いがあります。



図2 田子島町



図3 田子島町の近くの田んぼ



図4 与九郎島町



図5 与九郎島町の近くの田んぼ



図6 源兵島町



図7 源兵島町近くの共同墓地



図8

図2の場所



図9

図3の場所



図10

図4の場所



図11

図5の場所



図12

図6の場所



図13

図7の場所



図14

道路と下の建物の高さの違い(与九郎島町)

4 最近の洪水対策

昔の人は島集落などの高いところなどに行って身を守っていましたが、今どのような洪水対策がどうなっているのか調べてみました。それによると手取川では遊水池やダム、霞堤などがありました。図15が手取川の遊水地です。遊水池とは、たくさん雨が降った時に、川の水の量が増えます。そうするとあふれてしまうので、水をためられるところをつくって水をためます。そうして、水かさが元に戻った時に川に水を戻します。また水をためるところを活用するために、公園や野球場などが作ってあります。次にダムは、川の水をせき止め、少しずつ流し一気に水が流れるのを防いでいます。次に霞堤です。霞堤は戦国時代の武将武田信玄が考案したものです。霞堤は、堤防のある区間に開口部を作り上流側の堤防と下流側の堤防が、二重になるようにした不連続な堤防のことです。洪水時には開口部から水が逆流して堤内地に水が溜まり、下流に流れる洪水の流量が減少させます。洪水が終わると、堤内地に溜めた水を排水します。この霞堤が石川県の手取川にも使われています。



図 15 遊水池



図 16 堤防上



図 18 遊水池の堤防



図 19 二重の堤防



図 20 霞堤(切れている)



図 21 外側の堤防

(右側と左側の丘状のものが堤防)



図 22 堤防の下遊水池



図 23 堤防の上

5 感想

僕は、手取川の治水や地形を調べてこんなに昔の人の技術が使われていたことに驚きました。なぜなら僕はもっとコンクリートなどを使って堤防を作っていると思ったからです。昔の技術が、かつて暴れ川と言われていた手取川を氾濫しないように治めたのがすごいと思いました。ほかの日本や外国にある暴れ川の洪水対策について調べてみたいと思いました。次に、手取川の周りにはたくさんの島集落があったけど、日本には手取川と同じような扇状地がたくさんあって、たくさん暴れ川があるので石川県の島集落と同じような地形がないか調べてみようと思いました。

6 参考文献

- 流域治水って何だろう
- ダムとふるさと
- 日本の川
- 水辺のワンダー
- 川は生きている
- 白山市合併 10 周年記念雑誌